

## 式 辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんを心より歓迎いたします。ご父母、ご家族、保護者の皆さまにおかれましては、誠におめでとうございます。

今日、こうして来賓の皆様方とともに、新入生の皆さんをお祝いすることができることを本当に嬉しく思っています。

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックも、この春からは新しいステージを迎えます。お互いに感染には留意しながら、この3年間で失ったものを取り戻しつつ、一方で、この3年間の変化をしっかり踏まえて、私たちは過去に戻るのではなく、これから、新しい時代をつくっていかねばなりません。

日本福祉大学は、1953年に中部社会事業短期大学として開学し、今年で70年目を迎えます。本学を開学された学園創立者の鈴木修学先生は、建学の精神として熱い思いと期待を込めて、次のように記されています。

「この悩める時代の苦難に身をもって当たり、大慈悲心、大友愛心を身に負うて、社会の革新と進歩のために挺身する志の人を、この大学を中心として輩出させたいのであります。それは単なる学究ではなく、また、自己保身栄達のみならず、人類愛の精神に燃えて立ち上がる学風が、本大学に満ち溢れたいのであります。」

鈴木修学先生は、昭和初期から戦後にかけてハンセン病者や戦災孤児など、社会的に一番弱い人々の救済と支援に携わられました。すべての人の命を大切に、しあわせな暮らしの実現を願い、自らの命をかけて行動されました。そのなかで、本学を創立されたのです。

悩める時代の苦難は、今も同じです。コロナ禍で顕在化した生活困窮の問題、社会的孤立や格差の広がり、今、この瞬間も世界のなかで戦争は続いています。

そうした社会のなかで、私たちは自分を大切にすること、同じように他者を思いやること、そして社会を変えていくこと。そのために情熱を注ぐことができる志の人を、このキャンパスで育みたいのです。国家資格を取得したり、いいところへ就職するための勉強だけではなく、どうしたら人がしあわせになれるか、どうしたら誰一人取り残されない社会がつかれるのか、そのために専門性を磨き、人間としての生き方を模索してほしいのです。

日本福祉大学では、福祉という漢字を、平仮名のふくしと表記して、ふつうのくらしのしあわせと捉えています。皆さんは、どんなときにふつうのくらしのしあわせを感じますか。小学生にこのことを問いかけると、「ご飯を食べているとき」、「お風呂に入ったとき」、「友達と遊んでいるとき」そんな答えがかえってきます。

どれも当たり前のことのようにですが、それがふつうでないときに襲ってきます。病気になったとき、災害に見舞われたとき、もし日本でも戦争が始まったとき、ふつうのくらしのしあわせは、一瞬でなくなってしまうのです。

そして、今現在、何らかの事情で、こうしたしあわせを実感できないでいる人たちも大勢いるのです。私たちは、そうした人たちとともに歩み、ともに幸せになっていく道を探求していくのです。それが日本福祉大学の精神です。

そのためには、今までの自分の常識を一度、壊してみることも必要です。これまで縛られ

ていた偏差値や学歴といったものさしでは測れない世界があります。今までの自分では想像できないような価値観や生き方にふれてみることも大切です。なぜなら「ふくし」には正解がないからです。

今から 38 年前、1985 年 1 月 28 日、体育実技の授業としてスキー実習に向かう途中、長野県の犀川ダム湖にバスが転落しました。学生 22 名、教員 1 名、バス乗務員 2 名の尊い命が失われました。美浜キャンパスには「友愛の丘」があり、そこに慰霊碑があります。

私は、そこに足を運ぶたびに、志半ばで亡くなった無念を追悼するとともに、彼ら彼女たちから「ふつうのくらしのしあわせ」の尊さと有難さを教わっています。毎年、1 月に追悼集会を執り行います。ぜひ新入生の皆さんも、先輩たちから引き継がれてきた、命を大切にするというメッセージを大事に受け止めてください。私の命を大切にすること、相手の命も大切に思うということ。そしてすべての人の命を大切に思える想像力が必要です。

皆さんは高校で、SDGs のことを勉強してきたと思います。国連が示した持続可能な社会を開発していくための目標です。これはこれからの世界にとって、とても大事な取り組みです。しかしそれは、誰のための持続可能な社会を想定しているのかを問わなければなりません。一部の権力者や裕福な人たちにとって都合のよい、持続可能な社会を願っているのではありません。国連では、地球上の誰一人取り残されない社会にしていくことを誓っています。万人のための福祉を考えると、目の前にいる一人を見捨てないという覚悟が求められます。

これから皆さんは、日本福祉大学で様々なことを学びます。いろいろなことを体験します。そして大いに遊んでください。そのなかで「ふつうのくらしのしあわせ」とは何かを考えてみてください。それを自分の言葉にしてみてください。みんなで語り合ってみてください。そして同時に「誰一人取り残さないような専門性」を身につけてほしいのです。

そんな充実した学部の 4 年間、あるいは大学院の 2 年間で過ごせるように、私たち教職員は、全力で皆さんを応援していきます。何か困ったときには、遠慮なく「助けて」と言ってください。皆さんが安心して、助けてと言えるキャンパスにしていきたいと考えています。

そして 4 年後、皆さんがこの日本福祉大学で学んだことを誇りにして、社会に出ていくこと。それは皆さん自身の夢や希望を叶えるだけでなく、そのことがこれからの日本の社会をよりよくしていくことにつながる、鈴木修学先生はそう信じて、私たちにその精神を託されたのだと思います。

入学式にあたり、そのことを皆さんに祝辞としてお伝えし、こうして、皆さんと出会えたことに感謝して、お祝いの言葉といたします。

2023年4月1日

日本福祉大学学長 原田正樹